

地域での多様な活動

～救急救命学科学生の活動事例～

杏林大学保健学部救急救命学科：宮野 收 滝沢 文彦 久保利 勝治

自然災害が頻発・激甚化する日本における「災害に備えるまちづくり」

大規模災害時は様々な場所で被害が発生



公助
震災時等、消防車・救急車などの到着は遅れる可能性が大

自助・共助

その間は市民による消火・救助・救命処置などが必要
減災に向けた事前対策が重要

救急救命学科の学生は、どのように地域社会に貢献できるか？

救命講習等

2

2023年度の活動

- 1 市民に対するBLS指導（三鷹市総合防災訓練）
- 2 「第32回三鷹市民駅伝大会」で救護ボランティア活動
- 3 中学生に対するBLS指導

3

1 市民に対するBLS指導（三鷹市総合防災訓練）

- 実施日：令和5年11月5日（日）
- 参加者：救急救命学科ボランティア学生4名、教員1名
- 体験者：市民約200名が応急救護体験
- 内容：学生による心肺蘇生法及びAED取扱いの指導
- 市民から「親切な対応で、質問に分かりやすく応えてくれた。」といった声が聞かれた。



4

2 「三鷹市民駅伝大会」の救護ボランティア

- 実施日：令和6年2月18日（日）
- 参加者：救急救命学科ボランティア学生8名、教員5名
- 走者等：161チーム805名、総観客数は約1万4千人
- 内容：市内駅伝コース4カ所に設置された救護所で保健師と連携して負傷者対応
- 転倒等によるケガ人が数名発生したが、いずれも軽症であり、無事終了した。



5

3 羽村市内の中学生に対するBLS指導

- 実施日：令和5年6月16日（金）
- 参加者：救急救命学科学生50名、教員9名
- 対象者：3中学校、中学2年生延べ472名
- 内容：教員による講義、学生による心肺蘇生法の展示・指導
- アンケート結果：体験した中学生の約94%が「人が倒れたとき、協力して応急手当ができる（「まあまあできる」含む。）」と回答した。



6

4 三鷹市内の中学生に対するBLS指導

- 実施日：令和6年2月5日・6日
- 参加者：救急救命学科学生12名、教員2名
- 対象：第6中学校、中学1年生150名
- 内容：三鷹消防署及び東京防災救急協会と連携し、普通救命講習の指導
- 各中学校教員からも本学学生の懇切丁寧な指導に対し、好評を得ている。



7

まとめ

「災害に備えるまちづくり」の為には各地域の防災意識・防災力の向上が必要不可欠

→ 防災意識・防災力の向上には幼少期からの防災教育も大切！！



どの世代でも、応急手当を！

幼児
災害時には身を守る動作ができる

小学生
初期消火や応急手当ができる

中学生
地域防災の担い手になる応急手当

高校生
防火防災において社会に貢献できる応急手当

大学生
災害時にボランティア活動や社会に貢献できる
幼児等に安全教育を行なうことができる応急手当

防火防災に対する意識・行動力の向上

市民一人ひとりの防災力の向上